

幼研だより

【発行所】

久留米市幼児教育研究所

久留米市荘島町11番地1

(総合幼児センター2階)

電話 (0942) 35-3812

創刊：昭和54年5月15日

～幼児教育研究所で実際に使用している支援グッズを紹介します～

こんなときに使います	こんなグッズを活用しています	このように使用します
・数の概念や抽象的な感情表現が理解できる。 ・気持ちの切り替えが難しい。 ・一度感情が高ぶってしまつと落ち着くまでに時間がかかる。(特に怒りの感情)	きもちの温度計・色カード 	・活動の開始前にあらかじめ温度計を見せながら、1(よゆう)～3(ふつう)までで過ごすこと、4(ちょっとむり)になったときはクールダウンの部屋に行って気持ちを切りかえることを一緒に確認しておきます。 ・机の上には両面の色カードを置いておき、何もない青、「ちょっとむり」になった時は黄色を示すようにして、自分で今の気持ちの確認をしながら指導員にも伝えられるようにしました。 ・普段から自分の感情を意識できるようにし、1(よゆう)から5(もうだめ)までの感情を表す表を準備して、今どの段階かを意識させる。5(もうだめ)になる前の4(もうむり)に気づき、対応ができるようにしました。
・気持ちの切り替えが難しい。 ・色々なものが刺激になって、安心できない。 ・感情が爆発しそうで、ストレスを感じている。	クールダウンの部屋 	・静かで刺激の少ない環境を用意しています。刺激の少ない安心できる環境の中で、気持ちを切り替えることができます。 ・ルールを決めて使用し、自分で感情のコントロールができるようにします。(興奮をしずめることができます)

この他にも、支援グッズについてまとめたものを、幼児教育研究所 HP に掲載しています。是非ご覧ください。

久留米市幼児教育研究所



令和6年度子育て講演会

講演テーマ：「親子の関係をもっと楽しく♪」

～子育てのしんどさを減らそう！こどもへの適切な関わり方のヒント～

令和6年11月30日（土）幼児教育研究所にて、幼児教育研究所利用児の保護者を対象に子育て講演会を開催しました。今回は、「親子の関係をもっと楽しく♪」～子育てのしんどさを減らそう！こどもへの適切な関わり方のヒント～というテーマのもと、ペアレント・トレーニングを取り入れた講演とグループワークを幼児教育研究所の家村明子（医師・主幹）と鬼木美穂（臨床心理士）が行いました。

講演：こどもへの関わり方のヒント ☆一部を抜粋して紹介します

ペアレント・トレーニングの目的は？

○大人になったとき、自分に自信を持ち、笑顔で過ごせること

○こどもが生活する場所で、楽しく過ごせること

ひとりひとりの「できること」は違う→「今、できること」から始める！



関わり方のポイント

- ① 見方を変える(うまくいくポイントを見つける)
- ② うまくできたことをほめる
- ③ 環境を整える(わかりやすく工夫する)
- ④ わかりやすく伝える



今年もたくさんの方にご参加いただきました🌸

見方を変える(うまくいくポイントを見つける)・・・こどもの行動を“ABCフレーム”で考える

こどもの行動の背景には、**B:「行動」**の前後に引き金があると考えて、その**状況を観察し**、**A:「きっかけ」**となった原因の環境、もしくは、**C:「結果」**である関わりを変えていくことでこどもが不適応行動を取らずに済むという考えに基づきます

誤学習してしまう

A: きっかけ(原因)

B: 行動

C: 結果(対応)

お菓子売り場に行く

お菓子がほしいと言って泣く

お菓子を買ってもらえた

事前に約束を決めておく
(お菓子は買わないけど
家に帰ってデザートを食べる)



待てたことを褒める
家でご褒美のデザートを食べる
好きな遊びをするなどスペシャルタイムを持つ

○行動を「形式的に見る」のではなく、「**機能的に見る**」ことが大切！

「形式的に見る」：くるっばは、発達しようがいがあるから、おもちゃが欲しいと我慢できなくて泣く

「**機能的に見る**」：気になる行動の前後を見て、何が起きているのか見極める

参考資料：子育てに活かす ABA ハンドブック(井上雅彦)

○その行動の原因を考えて、事前の約束をする(おもちゃは買わないけど、家でデザートを食べる)ことで正しい行動がしやすくなるように導く。また、うまくできたときに褒めることで、正しい行動(約束を守って我慢する)ができるようになる！

グループワーク：事例の行動の「原因」と「対応」をグループに分かれて話し合いました

事例：買い物中の駄々こね 普段、夕飯の買い物を1人でしているお母さんですが、今日はハナコちゃんと買い物に來ています。お母さんはスーパーに入る前にお母さんの買い物を最後まで待つことができたならお菓子を1つ買うと約束しました。ハナコちゃんは待つことができましたが、お菓子を選ぶ際、2つ買いたいと大きな声で言い始め、泣いてその場に寝転がってしまいました。前にも同じようなことがあり、そのときはお菓子を2個買ってしまった。何が原因で、どう対応したら良いのでしょうか？

(原因)

- ① 複雑な約束をすることがまだ難しい
- ② 外出先など刺激(気になるもの)が多い場所では切り替えることがまだ難しい
- ③ 2個買ってもらった経験から、泣いたら2個買ってもらえると思っている

幼研の回答



(対応)

- ① ② 園に預けているときに保護者のみで買い物に行く(成長を待つ)
- ③ 安全を確保した上で不適応行動(かんしゃく)に反応せず、指示(「1つ選んでママのところに來てね」)をしたなら、数分間、その場から離れるなどして気になる行動に注目しない。好ましい行動(泣き止むなど)を取ることができたら必ずほめる(好ましい行動を強化する)



(保護者の対応) 買い物が終わるまで待っていてくれたことに「ありがとう、えらかったね」と言葉を添えて、こどもの気持ちが落ち着くのを待ってみる。こどもが落ち着いてから「1個買う」などお約束を伝える

子育て講演会アンケートより



- ・関わり方の工夫について、具体的に理由も知れたのでよかった
- ・こどもとの関わり方に難しさを感じていたため、ヒントをいただけた
- ・「それあるあるですよ」と、皆さんも同じように頑張っているんだなと思い、自分だけじゃないなという気持ちになった
- ・他の保護者の方と話すことで、自分で思いつかない考えを聞くことができてよかった
- ・自分だけでなく親がこどもと接する際に、悩み・葛藤を抱えていることを知るだけでも力がわいた

「にじいろのーと」ってどんなもの？

「にじいろのーと」は、こどもに関わる先生や保護者の方々の声から生まれたサポートブックです。

この中には、こどもの発達特性に応じて、行動面やコミュニケーション面に対してサポートの方法が示されています。

進学先のクラスやこどもが生活する場で、是非ご活用ください。



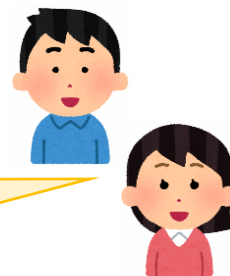
「にじいろのーと」を実際に活用できた場面

- ・好きなものを把握しておくことで、授業を受けるモチベーションを上げるための教材作りや、こどもとの関係づくりとして活用できた。
- ・行動面やコミュニケーションにおいてどんな対応がいいか参考になった。
- ・食事や衣服の着脱などどこまで自分でできるか把握しておくことで、過剰な支援をせず、こどもが自分でできることを待つことができた。
- ・こどもが安心できるグッズがわかったため事前に準備ができ、入学式の日から安心して活動に参加できた。

小学校での「にじいろのーと」の活用方法

- ・入学前にこどもの発達特性や対応の仕方などを把握できる。また、必要な場合は、支援グッズ・環境調整などの準備もできる。
- ・入学後、園や家庭での対応を参考に、準備や環境調整ができる。
- ・園との情報交換会や保護者と話すとき、「にじいろのーと」をもとにスムーズに話し合いができる。
- ・学校での支援の方略を考えるときに参考にいただいた。

小学校の先生が実際に「にじいろのーと」を活用した場面や活用方法です！



「にじいろのーと」活用時の個人情報保護について

「にじいろのーと」の作成の主体及び所有者は保護者です。このファイルは、保護者からの依頼により幼児教育研究所や各園、関係機関からの情報提供や作成協力によって作成されています。

- 「にじいろのーと」は、こどもへの理解や支援方法についての個人情報のほかに、支援者や関係機関に関する情報が多く含まれています。活用時には、個人情報の保護に十分配慮して慎重に取り扱ってください。
- 「にじいろのーと」は、本人の発達特性の理解を一番の目的としてご活用ください。このファイルを見ることが出来るのは、保護者の許可を得た支援者だけです。支援に関わらない第三者に情報を提供すること、保護者の承諾なしにコピーなどをして二次的に使用することは禁止しています。十分な配慮をお願いします。